



日本が32社選出で世界第1位

2位の米国（18社）を大きく引き離し、日本が引き続き世界のイノベーションをリードしています

2026年 世界のイノベーション勢力図



台頭するアジア勢と
停滯する欧米
台湾（12社）、韓国（8社）、
中国本土（テンセント、
ファーウェイ等）が躍進

15年連続受賞の
「イノベーションの殿堂」
世界で16社のみが全15回
連続選出されており、
そのうち9社が日本企業です

評価の柱：4つの主要指標



影響力
(Influence)

他の発明にどれだけ
引用されているか、
特許の質的インパ
クトを測定



成功率
(Success)

出願した特許がどれだ
け実際に登録に墾っ
ているか、発明の確
実性を評価



希少性
(Rarity)

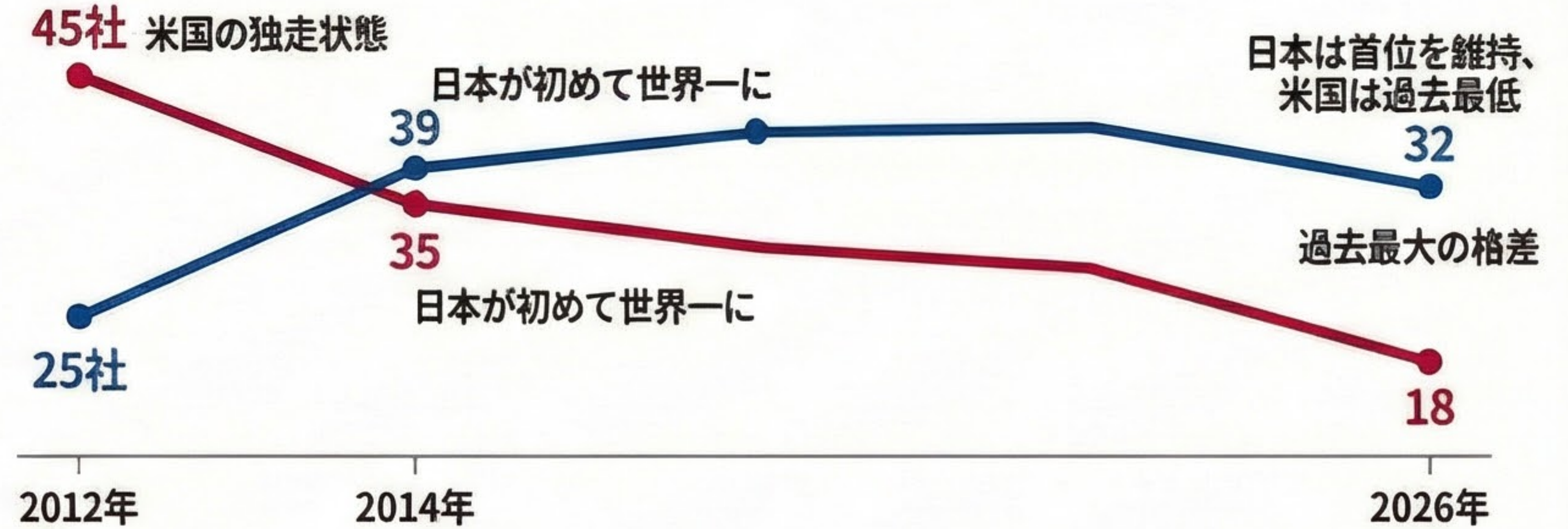
他のアイデアとは異
なる、独自の革新的な
発明であるかを判定



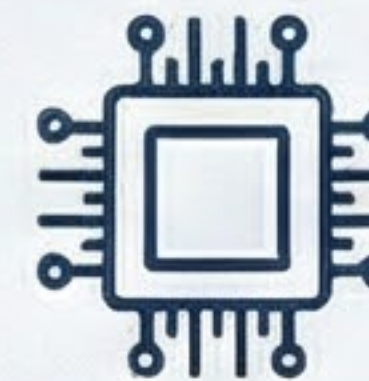
地理的投資
(Geographic
Investment)

世界の主要な市場で特許
を保護しているか、グロ
ーバルな展開力を評価

日本 vs 米国：15年間の逆転劇



日本の主要選出企業（32社の一部）



総合電機・ICTの巨頭

三菱電機, ソニー, NEC, 富士通,
日立製作所, パナソニック, 東芝

15年連続を含む常連として君臨



自動車・輸送機器

トヨタ, ホンダ, デンソー,
SUBARU

2026年はSUBARUが特望の初選出



高機能素材・部品

信越化学, 住友化学,
村田製作所, TDK, 日東電工

世界屈指の技術力で選出

メリットと今後の課題



データの客観性とPR効果

特許データに基づく定量的評価で、知財
戦略をアピールするツール



「特許偏重」への批判と透明性

ソフトウェアやサービス業の評価が難しい、
アルゴリズムが非公開（ブラックボックス）